

日中翻譯ルールをめぐって

相原 茂

0

中國語を話したり、中國語の文章を綴るとき、中國人ネイティブにとって日本語は何の関係もない。日本語を話したり、日本語の文章を綴る時、日本人母語話者にとって中國語は何の関係もない。お互い無関係である。

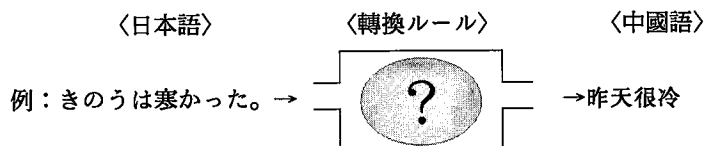
では日本語と中國語のバイリンガルにあってはどうか。私自身はバイリンガルではない。しかし、中國語を話しているときは、あまり日本語のことは考えない。無意識の影響はむろんあるのだろうが、日本語と中國語、やはり互いに無縁の世界を半ば獨立的に有しているのではないか。つまり日本人は新たに「中國語腦」を造り上げている。中國人は新たに「日本語腦」を造り上げていると考えられる。日本人の「中國語腦」がどれほど母語の干渉下にあるかというのは検討してよいテーマであるが、ここでは扱わない。

しかし、中國語教育の初期においては、どうしても、日本語の影響下にある會話なり作文なりが存在する。「次の日本語を中國語に譯しなさい」という形式は避けられない。繪を見て中國語作文ということも考えられるが、入門期においては日本語の影響が強いと考えられる。また通譯や翻譯というのは、明らかに互いの言語の制約下にあるだろう。

そこで、本稿では日本語を出発点として、中國語に變換する際の基本的なルールを考えてみる。

1. 日中翻譯ルール

中國語ができるとは、右の日本語を左のような中國語に變換することができることだと、いま考えておく。するとここにはいくつかの翻譯ルール、あるいは變換ルールと呼ぶべきものが介在している。



「昨日」は「昨天」であり、「寒い」は「冷」である、というような半ば機械的な語彙の變換は辭書部門でなされると考える。

そのうえで、日中を比べてみると、いくつか注目すべき變化がある。まず、「きのうは」の「は」は中國語に譯されていない。すくなくとも明示的な形式では存在しない。日本語の「が」や「は」は中國語では文頭の名詞という位置、つまりそれが主語であるとか、主題であるというような文法的な機能によって包含され、特別な形としては實現

されていない。こういうことを譯者は知っている。

次に、「寒かった」と日本語は「夕」形になっているが、中國語にはそれらしい對應形が見当たらない。テンスのない言語といわれる中國語であるから、日本語の「夕」が1對1對應で中國語に反映するわけではない。しかし、形容詞の過去形は規則的に中國語では、“了”などのマーカ―をとらないという規則は知っていなければならない。例えば「今日は楽しかった」は

今天玩儿得真高兴。

であり、ここでも“了”はつかない。

また、日本語にはないものとして中國語には“很”が現れている。この“很”の働きについては言うまでもない。肯定の平紋文で形容詞單獨の述語なら比較對照の意味合いが生じる。これを緩和し、整形作用をもつ“很”と考えてよい。

以上から、すくなくとも次のような二つの翻譯ルールを學習者は知らねばならない。(ルール見出しとして、記憶しやすさを圖った表記にしてある)

R29 形容詞 獨り身なれば“很”つけよ

R43 形容詞 きのうのことでも“了”は要らぬ

このようなルールを具體的には、しかるべき日中辭典の例文において、以下のように表示することを考えている。

『きのうは寒かった／昨天很冷 zuótiān hěn lěng. [R29, R43]

最後の[R29, R43]はいま挙げたルールである。數字はルール番號である。この表示の意味は、「きのうは寒かった」という文は中國語で「昨天很冷」と譯され、それはピンイン表示では zuótiān hěn lěng となるが、日中翻譯ルールとして[R29, R43]の2つが働いている。そして、この2つのルールは「ルール一覽」として別に示される。このような指示があれば、學習者はこの日中辭典を使用するごとに、ある例文の翻譯には「知るべき翻譯ルール」が存在していることを認知し、學ぶことになる。

ルールには性格がある。例えばR29は中國語になったときに“很”が新たに加わるものである。これを「増加」という範疇に入れる。R43は日本語の「夕」に相當するものが消える。これは「減少」という範疇に入れる。このようにして以下のような50のルールを假定する。

2. 日中翻譯ルール一覽

2・1 位置が變わるもの、型が變わるもの

- R 1 時間の長さを表す語の位置
- R 2 動作の回數を表す語の位置
- R 3 修飾語をいくつか並べるときの順序
- R 4 「動詞+目的語」構造の動詞に注意
- R 5 介詞フレーズを含む文での“不”の位置
- R 6 動詞の修飾成分——態度・状態は前、ものの屬性は後ろ
- R 7 こんな時“把”構文を使用しよう
- R 8 “來客人了”アポ無しの客は動詞の後にくる
- R 9 否定辭の位置と否定される成分

- R10 2種類の「AするBがある」
- R11 「も」にあたる“也”の位置
- R12 「だけ」にあたる“只”の位置
- R13 語順が入れ替わる「で」、「に」、「から」、「と」
- R14 動作の目的を後から補足する
- R15 日本語の迷惑受け身文は、中国語では能動文に
- R16 「XはYだ」はいつも“X是Y”とは限らない
- R17 肯定形、しばしば“不”＋～で表され
- R18 間接語法を使役文で譯す
- R19 「～デキル/デキナイ」「能」「会」「可以」を使わぬ時

2・2 増えるもの

- R20 中国語に譯すとき“这么”“那么”を忘れずに
- R21 名詞の場所化
- R22 中国語では現れる“人”
- R23 動詞・形容詞が名詞を修飾するとき増える“的”
- R24 お父さんは家族以外の人と共有できぬ
- R25 例外なく「同じ状況である／同じ動作をする」時は“都”を
- R26 中国語になると現れる代名詞
- R27 文脈に隠れた代名詞をさがそう
- R28 中国語では「誰に」を忘れない
- R29 形容詞獨り身なれば“很”つけよ
- R30 動詞はどうした？
- R31 積極的な意思を表す“来／去”
- R32 “被”受動文は受けた動作と結果のふたつでワンセット
- R33 數量表現を加えよう
- R34 起こりそうなら“会”がいる
- R35 前を受け、すんなりすぐには“就”がいる
- R36 なんとか、やっと、それでこそ“才”
- R37 願望や感情形容詞には主體を明示
- R38 「～してそれから」は“再”を置け
- R39 形容詞の命令化方策

2. 3 消えるもの

- R40 「れる・られる」, でも“被, 让, 叫”は使わない
- R41 中国語の“吗”がいる時といらぬ時
- R42 「いつも」なら, 過去のことでも“了”は不要
- R43 形容詞きのうの事でも“了”はいらぬ
- R44 連動文, 前の動詞に“了”はつけぬ
- R45 「承知した」と言っても“了”はいらぬ
- R46 ずっと續けば過去の事でも“了”は不要

- R47 否定なら實現済みでも“了”はいらぬ
 R48 「疑問詞+か」の「か」が消える
 R49 用言もそのまま主語や目的語
 R50 ソレ, ソノ, ソコと“这”, “那”

3. いくつかの翻譯ルール

本稿では、これらのルールのすべてを詳述する餘裕はない。主に

R30 動詞はどうした？

を中心に検討してゆく。これは日本語では動詞がないのに、中國語では動詞が現れるという場合である。一般的に、中國語では動詞の省略は少ない。日本語では「花より團子」という。花よりも團子がいい、という「いい」の部分は言わない。「先日はどうも」といい、述語の部分を言わない。「今日はちょっと」といえば斷りの表現になるが、中國語では「今天不行」と言わなければならない。その他にも、

- | | |
|-----------|-------|
| どちらへ。 | 上哪儿去？ |
| お茶をどうぞ。 | 请喝茶。 |
| どうぞごゆっくり。 | 请慢用。 |

中國語ではいずれも述語動詞を缺かせない。

3・1 “喜欢”や“爱”のあとの動詞

「～がすきである」という時、日本語は対象物を直接目的語にとることができる。それに對して中國語は動詞を必要とする。

- 1) あなたはコーヒーがすきですか。你喜欢喝咖啡吗？
- 2) あなたはパンがすきですか。你喜欢吃面包吗？
- 3) 私は映畫がすきです。我喜欢看电影。

中國語ではいずれも“喝咖啡”“吃面包”“看电影”のように動詞を加えている。もちろん、“喜欢”や“爱”は名詞を目的語にとることもできる。

- 4) 我喜欢中国。
- 5) 我喜欢夏天。
- 6) 我喜欢张老师。

あとの目的語を「まるごと、全體を」すきという場合はこれでよいが、ある側面という場合、中國語では動詞により嚴密に區分けする。

- 7) 我喜欢音乐。
- 8) 我喜欢听音乐。

3・2 様態補語で表す中國語

「様態補語」の導入は難しいといわれるが、その理由は日本語に譯しにくいからであり、すなわち日本語の發想とズレがあるからである。たとえば、

- 9) 彼は歌がうまいね。他歌唱得真好。

中國語は「彼は歌は唱うのがうまい」となっている。つまり“唱得”が日本語と比べると餘分だ。様態補語を導くための“V得”は自然な日本語の中にはない。

10) 柔柔公司の廣告看板はどうなっている。

柔柔公司广告牌做得怎么样了？

11) アメリカで成功してたそうですね。

听说你在美国干得很成功。

12) 彼女は（成長して）美しい。 她长得很美。

13) 彼女は（着飾って）美しい。 她打扮得很漂亮。

14) 今日はどうだった。 你今天过得怎么样？

15) 魚、おいしいね。 鱼做得很好吃。

ただ、これらの例では“V得”は必須というわけではない。文によっては、

16) 听说你在美国很成功。

17) 她很漂亮。

のような形でも成立する。ただ、“V得”+様態補語による形があり、むしろそれが優勢ということは知っておくべきだろう。

このことは日本語では“得”以下のみを言語化し、“動詞+得”の部分にはあまり關心がないということである。“動詞+得”の部分がプロセスとすれば、“得”以下はその結果と言える。動作のプロセスと結果において、中國語が2段階表示をするのに對し、日本語は結果により多く關心を寄せているということになる。このことは次のような動詞+結果補語の問題とも關連する。

18) 彼はおなかを壊した。 她吃坏了肚子。

3・3 動詞+結果補語

「すみません遅れました」と遅刻をわびるとき、われわれは結果のみを言い、中國語のように“来”は加えない。類例とともに示す。

19) 对不起, 我	来晚	了	(遅れました)
	打错	了	(間違えました)
	走错	了	(“ ”)
	说错	了	(“ ”)

動詞がないと「まるごと」間違いを犯したようになる。

20) 对不起, 我错了。(申し譯ありません, 私の責任です)

さらに“被”受動文の制約も思い起こされる。ここでも一般に、どのような動作を被り、どのような結果となったか、動作+結果の両方が示される。

21) 木が風で倒された。 树被风刮倒了。

22) おもちゃが弟に壊された。 玩具被弟弟弄坏了。

いずれも動詞“刮”、“弄”が要る。しかし、これらは「受け身文のルール」として別に立てるほうがふさわしいだろう。

3・4 動詞+趨向補語

趨向補語も結果補語の一種と考えられるから、日中を對照してみると對應していないことがわかる。

23) 彼は教室に入っていった。

他走进教室去了。

上の文では“走进教室”は「(教室に)歩いて入っていった」であり、主動詞である“走”が日本語にはなく、中國語に現れていることがわかる。

この問題は單純に主動詞のみの問題ではない。日中で趨向補語の部分が對應していない場合もある。杉村2000はこの問題を詳しく扱っているが、上のような現象を「中國語は空閒移動のデフォルト値“走”を言語化する方向でデザインされている。」と説明している。

人の移動は、普通、何も言及がなければ「歩いて」と理解され、そのような前提は日本語では積極的には言語化されず、一方中國語では言語化されるという解釋である。日本語では文脈からであろうと、場面からであろうと、類推可能なもの、省略が復元可能なもの、すなわち情報量の少ないものは言わずにすます傾向が強い。

3・5 「～へ行く」と“去～”

3・5・1

「～へ行く」という言い方、これも中國語では動詞が必要である。

24) 一起去	唱 卡拉OK		吧
	跳 迪斯科		
	听 音乐会		
	弹 爬金库		

日本語では「カラオケに行く」というが、中國語では“去唱卡拉OK”となる。同じように日本語は「ディスコに行く」といえるが、中國語では“去跳迪斯科”と動詞“跳”を使うことになる。中國語の“迪斯科”は「音樂の一種」であり、「踊りの一種」である。こういう抽象的な名詞は“去”の目的地にはなれない。

日本語の「カラオケ」「ディスコ」「パチンコ」などはすべて「～に行く」ということができる。「カラオケ」というフレームには、中國語よりも多彩な側面が含まれると言ふべきである。中國語の解釋では“卡拉OK”は單に「無人のオーケストラ、一種の音響設備」である。これは“去”の目的語にはなれない。

日本語は、これらの名詞のほかに、

展覽會, 博覽會, 運動會, ゴルフ, テニス, 映畫, コンサート, 芝居,
ボーリング, オペラ, ……

などが「～に行く」の形をとることが可能である。

日本語ではこれらの「～に行く」というフレームにおいて、單にそれが行われている場所に移動するのみではなく、「イベント」「遊び」「活動」を行うといった側面もプロファイルされると考えられる。

3・5・2

中國語の統語論的制約に即して考えれば、動詞“去”のあとであるから、場所表現が來れば問題ない。たとえば“卡拉OK”の代わりに、カラオケ活動が行える場所、すなわち“歌厅”(カラオケホール)ならば次のように言える。

25) 去歌厅

同様に、“迪斯科”の代わりに“迪厅”(ディスコホール)を用いれば、次のように言える。

26) 去迪厅

これに對して、日本語で「泳ぎにゆく、風呂にゆく、釣りに行く」などは、「泳ぎ、風呂、釣り」ともに名詞だが、これを中國語にすると、それぞれ

27) 去游泳 去洗澡 去钓鱼

となり、「游泳」、「洗澡」、「钓鱼」は動詞であり、問題が解消する。

ことなる解消法もある。カラオケと同様、このような活動が行える場所名をもってきてもよい。すなわち、プールであり、銭湯であり、釣り堀である。

28) 去游泳池 去洗澡堂 去钓鱼园

すなわち“去”の後が、場所名詞であるか、目的を表す動詞表現であれば許容される。ゆえに「會議に行く」と言うが、中國語では“去会议”とは言えず、“去开会”のようにしなければならない。“会议”は場所名詞でなく、“开会”ならば動詞フレーズであるから許される。

3・5・3

宮島2003では、これらの現象を解釋するものとして、「カテゴリー的多義」という考えを提出している。例えば、ある團體、組織は同時に建物であり、場所であることが多い。「會社（銀行・警察）が～を決定した」というとき、それは、主體的に行動ができる人の團體・組織である。「學校」もそういう例である。

29) どこの學校に入ろう／进什么学校为好（「坊ちゃん」）

しかし、「學校へ入る」は子どもが學校のグラウンドへ遊びにはいるときには、それは空閒になる。また、

30) 學校の二階から飛び降りて／从学校的楼上跳下来（「坊ちゃん」）

は建物としての學校である。「會社がやけた」もそうである。さらに、日本の「學校」は學校のする行動としての授業をあらわす用法がある。

31) 學校は八時に始る事が多い／学校大多是八点上课（「こころ」）

ところが、中國語ではこの「學校のする活動としての授業」を表すことはできない。中國語では“八点上课”としなければならないと指摘する（以上、用例も宮島2003による）。

以上のような違いは日中では顯著にみられるものの、日本語の名詞の特性としてはあまりとりあげられてこなかったのは、おそらく日本語と英語ではこの間の違いがないことによるのではないか。

32) Do you like movies? 映畫は好きですか。

33) Let's go to the movies. 映畫にゆきましょう。

34) We have no school today. 今日は授業がない。

35) School begins at 9:00. 學校は9時にはじまる。

日本語を英語に直すという場合なら、これらの名詞群は問題にならない。「～が好き」という場合も動詞はいらないし、schoolは「授業」の意味もある。日中の間でこそ要注意ということになる。

3・5・4

認知言語學ではメトニミーの考え方をとる。メトニミーの定義はいくつかあるが、そのひとつは。

メトニミーとは、（現實）世界のなかで隣接關係にあるモノとモノとの間で、一方

から他方へ指示がずれる現象のことを言う。(瀬戸1997)
 というものである。学校ということから「授業」はその活動の一部であり、かなり本質をなすものであるが、容易に学校からそれを指示できると、日本語では考えられていることになる。

どのような解釈をとるべきか、筆者に現在定見があるわけではない。日中翻譯の初期教育とはいちおうは無縁であるゆえ、この議論はここではしない。

3・6 「～を忘れた」と“忘了VP”

「～を忘れた」という文も日本語では動詞がなくてもよいが、中國語では動詞を補う。“忘”は動詞フレーズを目的語にとることができる動詞である。

- 36) 傘を忘れた。 忘了带伞
- 37) 財布を忘れた。 忘了带钱包
- 38) 鍵を忘れた 忘了拿钥匙
- 39) 携帯を忘れた。 忘了带手机

動詞をつけないと、“忘了钱包”では「財布のことを忘れた」となり、體言目的語をとった例「别忘了我」(私の事を忘れないで)と平行する。

これらは、たいていは家から出る時に身につけていくモノだ。ゆえに「傘を持ってくるのを忘れた」のであり、「財布を持つのを忘れた」のである。こういうことは言わずもがなのことであるとして日本語は言及しない。

「辨當を忘れた」は、いくつかの意味が可能だ。

- 40) a. 辨當を買ってくるのを。
- b. 辨當を持ってくるのを。
- c. 辨當を注文しておくのを。
- d. 辨當を作るのを。
- e. 辨當をどこかに置き忘れた。

このようないずれの状況でも日本語は「あっ、辨當を忘れた」でカバーすることができる。中國語の場合はすべてふさわしい動詞によって表現される。

3・7 兼語式

日本語にはない構文として中國語の兼語式がある。典型的な“请”を使った例を見られたい。

- 41) 我请你吃饭 (食事をおごるよ)

上の文において日本語では「食事」をおごると名詞を直接目的語にとっているが、中國語では“我请你吃饭”のように動詞が入る。「食事」ではなくて、もっと具體的にいうこともできるが、やはり動詞“吃”は缺かせない。

- 42) 我请你吃 {牛排/烤鸭/涮羊肉}。
 ({ステーキ/北京ダック/羊のしゃぶしゃぶ } をおごるよ)

食べ物以外を「おごる」対象にすることもできるが、動詞はやはり必要とされる。

- 43) 我请你喝茶。(お茶をおごるよ)
- 44) 我请你喝酒。(お酒をごちそうするよ)
- 45) 那, 你请我看电影。(じゃ、映畫をおごって)

“劝”（すすめる）なども同様の現象が見られる。

46) 你劝叔叔喝啤酒。(おじさんにビールをすすめなさい)

47) 劝女儿相亲。(娘にお見合いをすすめる)

そもそも兼語式とは“请”や“劝”などの目的語がそれ以下の動詞の主語でもあるということからくる命名であるから、これは中国語の統語論的要請と言える。ここでも「ビールをすすめる」とは「ビールを(飲むよう)すすめる」ことだと解釋するのが自然であるが、「ビールをすすめる」という日常的なフレームのなかで、「おじさんの空になっっているグラスにビールをついであげなさい」という解釋もある。それなら

48) 你给叔叔倒啤酒。

と中国語譯されることになる。いずれにしる中国語では動詞表現による明確化が必要なことには變わりない。

3. 8 その他

次は陶2000による用例である。

49) 手紙でも電話でも連絡してみてください。／写信也行，打电话也行，请你联系一下。

「～で」は手段を表す。「自轉車で來る」は“骑自行车”である。やはり動詞“骑”を使う。「エレベーターで降りる」なら“坐电梯下去”である。“坐”を使う。この時、エレベーターであるから實際は“坐”(腰掛ける、坐る)ことはない。ゆえに“坐”はかなり虚化していることがわかる。しかし、それでも“坐”は乗り物専用である。

いずれにしる、典型的な道具である場合は“用”でよいが、そうでない場合はふさわしい動詞を用いることになる。

もう一つの例を見よう。(同じく陶2000の例)

50) ハイヒールの奥さんも可愛い洋装の子供も恐らく心臓がどきんどきんするほど走っていたのだが、……／不论穿高跟鞋的夫人，还是穿西服的女孩都跑得心里咚咚跳，……。

日本語では「ハイヒールの奥さん」「洋装の子供」という言い方が許される。他にも「ヒゲのおじさん」「サングラスの男」など、よく見られる。他の人から區別して、ある人を特徴づけるわけだが、そのやり方が、臨時的に身につけているものによる。人間というベースにおいて一番目立つところに着目した規定である。中国語では、やはり動詞を補うことになる。

51) サングラスの男 戴墨镜的男人

52) 赤いスカートの少女 穿红裙子的少女

3. 9

以上のような中国語における動詞の補充という側面を翻譯ルールに反映させなければならぬ。3. 1から3. 4までのケースの代表例をあげながら次のような形が考えられる。

ルール見出し：R26 動詞はどうした？

日本語は動詞を省略する傾向にあるが、中國語では動詞を省略せず明示することが多い。

- I 「私は肉が好きです」→“我喜欢吃肉”
(動詞“吃”を加え“喜欢+VP”の形にする)
- II 「彼はおなかを壊した」→“他吃坏了肚子”
(動詞“吃”を加え「V+結果補語」の形にする)
- III 「彼は教室に入っていった」→“他走进教室去了”
(動詞“走”を加え“走~”の形にする)
- IV 「今日は楽しかった」→“我今天玩儿得真高兴”
(動詞“玩儿”を加え「V+得+様態補語」の形にする)

日中翻譯において、確かにこのようなルールが存在し、それに基づいて中國語が生み出されている。もちろん、これらは一部であり、かつ極めて基本的なものに過ぎない。なお、3・5から3・8でとりあげたものについては上のルールでは反映されていない。5つ以上を併記することは、教學的には學習者の記憶の負擔が大きくなりあまり好ましくないだろう。動詞補充ルールに関しては、大きく2部に分けた示し方が効果的かもしれない。また、各條のルールも、性格の異なるものが入っている。受け身文や“把”構文などではVR構造の述語が文法的に必須とされ、絶對的な條件になる「動詞補充」もあれば、“喜欢~”のように動詞を缺けば誤解されたり、意味が変わったりというレベルのものもある。さらには「V得+様態補語」の“V得”のように、それがなくても大きな障害にならないケースも見た。

4 底流をなすもの

中國語の譯讀などをしていて、必ずひっかかるのが“会”や“就”や“才”であることはだれしも経験済みだろう。これらの助動詞や副詞が譯としてはすなおに日本語に溶け込まないからだ。ということは、日本語には表面的にはこれらは現れず、しかし中國語では、これらを缺くと文としておかしくなることを意味する。以下、例をあげる。

4・1 蓋然性をあらわす“会”

- 53) ふかないと曇ります。
不擦会模胡。
- 54) 大丈夫、落第はしないから。
不要紧，不会留级的。
- 55) 年をとると、だれでもそうなります。
上了年纪谁都会那样。
- 56) 努力すればきっとよい成績をおさめられる。
只要努力就会取得好成绩。

いずれの例も主節に“会”が現れていること。前を受け、動作や状態の發生について強い蓋然性を示している。日本語にはないが、これらは「底流をなしている」論理感覺である。そして中國語では顯在化している。

次に見る「就」や「才」についても同様で、日本語では「底流をなし」顕在化しないが、それを中国語へ直す時には「顕在化イコール言語化」してやる必要がある。「再」の例も示すが、これは「再び」の“再”ではない。

4・2 “就”

- 57) 顔の丸い人が黄君です。
圆脸的就是小黄。
- 58) 見るだけでつばが出る。
光看就要流口水。
- 59) あと一息だ。
再加一把劲就好了。
- 60) 笑うとエクボができる。
一笑就有酒窝。
- 61) 朝くらいうちから野に出てはたらく。
清晨天不亮就到田里去劳动

4・3 “才”

- 62) いいえ、ふだんは洋服を着て、正月などは着物をきます。
不，平时穿西服，过年等时才穿和服。
- 63) 若いとあなどるな、よく頭が回る人だよ。
别看他小，心眼儿才多呢。
- 64) わたしは歌わないよ、歌いたい人が歌えばいいじゃないか。
我才不唱，谁爱唱谁就唱。

4・4 「～してそれから」の“再”

- 65) 宿題を片付けてから遊びなさい。
做完作业后再去玩。
- 66) かき混ぜてから飲みなさい。
搅拌后再喝。
- 67) 中央線で新宿まで行って、山の手線にのりかえます。
乘中央线到新宿，再换乘山手线。

以上、いずれも時間に關わる副詞類である。日本語ではいずれも表層にはあらわれませんが、論理の「底流にひそみ」、中国語では明示化されるという共通性をもつ。他にも“都”なども同類であろう。

5. 否定表現「“不”＋～」で表す中国語

これまで見てきたのと性質の異なるルールもある。例えばわれわれは「今日はどうしたんだ、顔色が悪いね」などというが、中国語では“脸色坏”とはまず言わない。否定形を使い、

- 68) 脸色不好。

である。ここから、

日本語で肯定形で表現していても、中國語では、「不 + ~」で表す方が多い。という傾向を指摘することができる。

69) 體に良くない・悪い。

对身体不好 ×对身体坏。

70) 今日はお腹の具體が良くない・悪いから、ご飯を食べたくない。

今天我肚子不好不想吃饭。×今天我肚子坏不想吃饭。

もちろん、日本語では、肯定形のみで表す場合と、肯定形・否定形の両方を使って表せる場合がある。上の例では「身體によくない／悪い」、「お腹の具合が良くない／悪い」である。一方、中國語では、否定形のみで表す場合と、肯定形でも表せなくはないが、どちらかといえば、否定形の方がよりよく用いられるケースが多いようだ。

71) 僕はダンスが嫌いだ。

我不喜欢(讨厌)跳舞。

72) あの人は肉が嫌いです。

他不喜欢(讨厌)吃肉。

語によっては、否定形が一般的である。例えば「違う／異なる」は日本語では肯定形だが、中國語では否定形“不同”“不一样”が普通だ。

73) 國が異なれば、話す言葉も人の考え方も異なるものだ。

国家不同, 其语言和人的想法也不同。

74) 民族によって風俗が異なる。

民族不同, 风俗也不一样。

「多い」と言わず、「少なくない」と言うことがある。中國語の“不+形容词”の用法も「想像していたより~だ」「豫想に反して結構~だ」という含意がある。

75) 彼は若いときははずいぶん苦勞をしたようです。

他年轻的时候好像吃了不少(很多)苦

76) もう遅いからそろそろ帰りましょう。

已经不早(太晚)了该回去了。

以上のような觀點をまとめ、ルール:

R17 肯定形、しばしば「不 + ~」で表され
とすることができるだろう。

R17は肯定形と否定形をめぐる問題であったが、發想の逆轉ともいうべき視點も時に有効である。

「これは兄からもらったものです」は中國語に譯しにくい、「これは兄がくれたものです」とすれば簡単だ。

77) 这是哥哥给我的。

「お店は何時までやってありますか」も言いにくい、「何時に閉まりますか」と考えればすぐ譯せる。

78) 几点关门?

視點が變わっている。「父は留守です」などはさきほどの否定形を使う。

79) 爸爸不在家。

「ここ空いていますか」もとっさには中國語にならないが、「ここ誰かいますか」と考

えれば簡単である。

80) 这儿有人吗？

日中翻譯のコツともいうべきものだが、これらの發想の根源が解きあかされれば有効なルールとすることも可能だろう。

さらに、ルールの範疇に入れるのはむずかしいが、例えば中國語に特徴的な構文として、「疑問詞呼應構文」と呼ばれるものがある。

81) 負けた人が行く。

谁输了谁去。

82) 幾らでも欲しいだけ持ってゆきなさい。

要多少拿多少。

83) 車があると便利だよ、行きたいところに行けるから。

有车真方便，想去哪儿就去哪儿。

84) 御主人さまには逆らえぬ。

端谁的碗，服谁的管。

複雑さをいとわなければルール化も不可能ではないが、入門や初期の學習者に提供するものとしてそれはふさわしくないだろう。したがって、これらはルールとは別の形の情報として提供することを考えている。

日中翻譯の基本的なルールを明らかにし、體系化することは、日中辭典をはじめ、作文教育や日中對照研究などに裨益するところ少なくないと思われる。

附記：本稿における「日中翻譯ルール50」は筆者の2002年度のお茶の水女子大學における大学院ゼミ受講生による分擔作業によっている。各ルールの見出し名、分類については暫定的なものである。

参考文献

瀬戸賢一1997 『文化の發想とレトリック』研究社出版

杉村博文2000 “走进来”について『荒屋勤教授古希記念中國語論集』白帝社

陶振 孝2002 翻译中的增补小义『日語學習與研究』（對外經濟貿易大學）第1期

宮島達夫2003 カテゴリー的多義の比較『日語研究』第1輯 商務印書館